

## 編集後記

今号は、昨秋行われたシンポジウムの講演者から 3 名の方のご寄稿をいただき、特集として掲載しました。また会長が毎月日本農学アカデミー会員向けに書かかれた農学アカデミー便り (No.1~No.44) をまとめて掲載しました。改めてお読みいただくと幸いです。なおアカデミー便りをご覧になるにはパスワードが必要です。パスワードは農学アカデミー便り 6 月号をご覧ください。17 号の石丸論文も同様です。

ところで私事ですが、もう 10 年ほどウォーキングを続けている。事の発端は人間ドックで血糖値が高いからすぐに病院で検査を受けなさいと言われ、勤め先の病院に行ったところ、インスリンは出ているので、体重を減らし、歩きなさいと言われたことによる。ただ歩くのは面白くないなと思っていたところ、東京には川や上水 (用水) が多数あり、坂道も多いことに気づき、これらを調べながら歩くことにした。毎日 1 万歩を歩くことを目標にしているのだが、雨の日もあるので 1 週間で 7 万歩としている。大体 10 年間この目標はクリアしている。当初は、家内と 2 人で歩いていたのだが、武蔵野台地の川や上水 (用水) は数年間で殆ど歩きつくしてしまった。どうしたものかと思案していたところ、強い相棒が現れた。嫁いだ娘の小 3 の長男で、結構、川の上流、とくに暗渠になってしまったところを探して歩くのが好きで、もう 3 年目になり、現在彼は 6 年生になった。今は私が生まれ育ち、現在も住んでいる埼玉県東部にある草加市を中心に調べて歩いている。草加という名前から想像されるように、以前は沼沢地であり、草を加えて日光街道の元を作ったとの言い伝えがある。その昔、縄文海進により海底となり、いわゆる泥がたまって沖積平野になった。その後、利根川や荒川が、草加あたりを流れていたため、水はけの悪い沼沢地となったのだが、徳川家康の江戸移転に伴い、利根川の東遷、荒川の西遷により、乾燥化し、新田が多数作られた。田はできたが、そのため水が少なくなり、如何にして稲作のため用水を賄うかが問題となった。もちろん我々の体の 70% は水であることから飲み水の確保も重要である。武蔵野台地も同じであった。江戸町民の飲み水確保のために作られた玉川上水から延べ 33 か所の分水が主に灌漑のために取られたことも、水田の重要性を示している。

武蔵野台地も下町の沖積平野も水の確保が如何に重要であったかがわかる。農民も町人も (江戸に住む武士にとっても) 水の確保は大事であった。これは今も変わらない。農業の発展のためにも水は必要であった。

孫も水の重要性は理解しているようだ。これは長い目でみると、水の重要性を理解した若い人を養成することにもつながると思って、人材育成に努めている。 (會田勝美)